

富士電機は、「環境保護基本方針」および「環境ビジョン2050」に基づき、「循環型社会の実現」を目指し、サプライチェーン全体で3R(リデュース、リユース、リサイクル)を指向した活動を推進しています。その一環として生産時に発生する余材の再生利用向上を目指し、廃棄物(埋め立て処理)の削減に取り組んでいます。

事業活動における廃棄物の削減

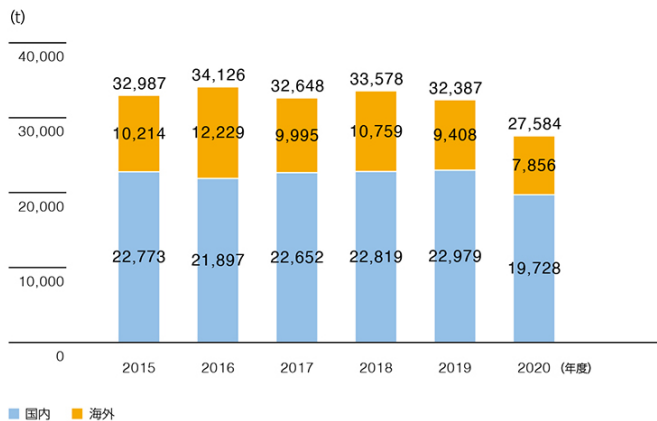
製品における小型・軽量化や規制物質を使わない設計、製造段階での品質活動による不良低減などへの取り組みで、廃棄物の総量の削減、再資源化、埋め立て廃棄物量の削減を目指しています。目標は、最終処分率(埋め立て処分量/廃棄物等発生量)を1%未満とするゼロエミッションです。

国内では、資源の有効利用(使用量抑制、再使用、再利用)によるゼロエミッションを2004年度以降継続して達成しています。2020年度は、溶解炉のオーバーホールによって銻(すず)が多く排出されたことから、埋め立て廃棄物量が増加しました。このため、最終処分率(国内)は0.62%となり、目標値(0.5%)は未達となりました。2021年度は、銻(すず)の再資源化ルートが確定したことから、銻(すず)による埋め立て廃棄物量は削減する見込みです。

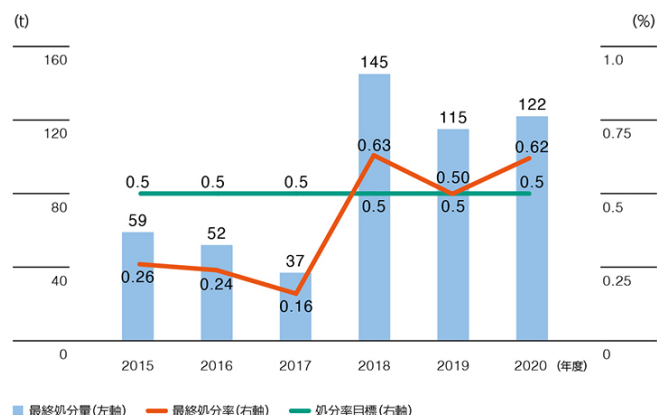
海外では、年々再資源化が進み、最終処分率は低減してきました。2020年度はコロナウイルスの影響を受けて、再資源化業者が一時操業停止となったことから、セメント原料へ再資源化していたマレーシアの無機性汚泥が埋め立て処分されました。結果、最終処分率は4.7%に悪化し、目標値(3.0%)は未達となりました。現在では、汚泥の再処理はコロナ以前の状態に戻っています。

2020年度は、全社の最終処分率は1.8%となり、目標値(2.0%)を達成しました。今後2030年度までに「全社最終処分率1%未満」達成に向けて継続して取り組みます。

廃棄物発生量の推移



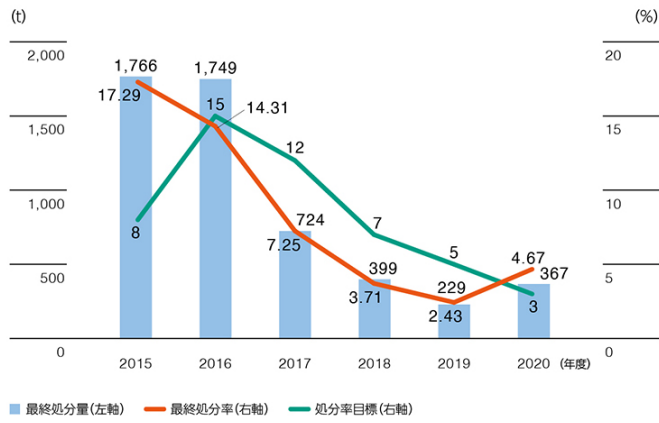
国内の最終処分量・最終処分率の推移



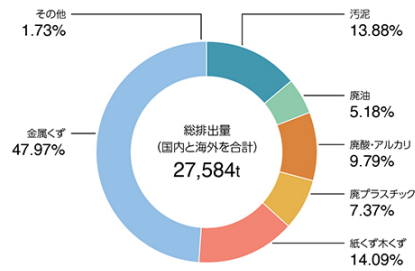
海外の最終処分量・最終処分率の推移

ESG 環境・社会・ガバナンス

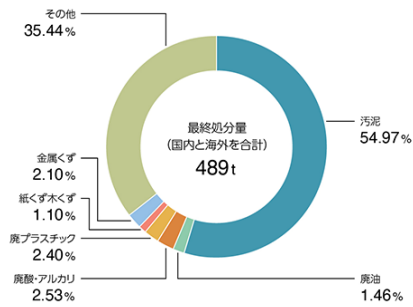
富士電機のSDGs
ESGの重要課題
環境ビジョン
環境
方針・環境ビジョン2050・TCFD提言に沿った取り組み
環境保護基本方針
環境担当役員メッセージ
環境ビジョン2050
TCFD提言に沿った気候関連情報開示の取り組み
環境マネジメント
環境経営の体制
環境マネジメントの取り組み
環境経営の実績・データ
環境経営の目標と実績
事業活動と環境負荷の相関
環境会計
環境データ集2020年度
第三者検証報告書
脱炭素社会の実現
温室効果ガス排出量削減の行動計画
生産時の温室効果ガス排出量削減
製品による社会のCO2排出量削減
サプライチェーンにおける温室効果ガス排出量
循環型社会の実現
事業活動における廃棄物の削減
水資源の有効利用
製品の環境負荷低減を目指した取り組み
自然共生社会の実現
化学物質管理
生物多様性の保全
社会
ガバナンス
ESGインデックス
ISO26000対照表
社外からの評価
PCB使用電気機器の判別について
富士電機レポート2021
報告書バックナンバー
環境カタログ「Blue Navigation」
資料請求



2020年度 廃棄物発生量の構成比 (国内+海外)



2020年度 廃棄物最終処理量の構成比 (国内+海外)



廃棄物発生量・埋め立て量内訳 推移データ 第三者検証報告書